

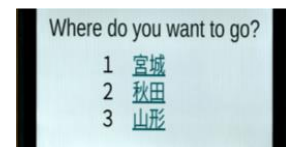
- <学校名> 草加市立花栗南小学校
 <所在地> 埼玉県草加市花栗4-3-1
 <電話> 048-941-2854
 <本事例の特徴>

本校では、単元目標を達成するために、活動内容の研究を行い、工夫して授業を進めている。外国語については、小さい教室の中でも、一斉に発声したり、児童同士の交流機会を設けたりするために、場の工夫やICTの活用も積極的に行っている。また、教室の飛沫防止ボードの活用や、外国語ルームの机を抗菌コーティングすることでコロナの感染対策を行っている。今回は、6学年の“Welcome to Japan”の授業から、自校の取組を紹介する。

<具体的な取組や成果>

○6年生外国語の授業を通して行う「国際理解教育」

- ・自分の紹介したい県を決め、調べ学習を行った。それぞれが選んだ県を紹介するために写真を2～3枚入れてスライドを作成した。同じ地方ごとに、共有フォルダ内に調べた内容の写真を入れて、班員分のスライドを一つにまとめて発表を行った。班ごとにスライドを発表できるように練習した。一人一台のタブレットの中に、班員の調べた内容を一つにまとめ、共有を図ることができた。



- ・体育館に長机を並べ、班ごとに、距離を保ちながら発表会を行った。児童は、自分の気持ちを伝えるために、言葉と体を使って表現していた。広い場所で行ったおかげで、いつもよりも大きく表現できたり、はっきりと話すことができたりした。



○児童の感想より（一部）

この単元を通して改めて日本のよさに気付けた。次回はもっとジェスチャーを入れて発表したい。発表に自信がもてるようになったので次の学習に生かし努力したい。

- 本校児童の課題を明確にするために単元の始まりにアンケートを行った。単元の始まりの児童の実態と終わりの成果を見ることで、授業者の授業改善の機会とするとともに、児童が自らの学びを実感できた。特に課題として上がっていた、「もっと外国語を聞いたり、話したり、書いたりできるようになりたい」の項目では、そう思うが15人から23人に増加し、今単元で外国語の学習意欲を向上することができた。